資料

石狩市での
教育・パートナーシップに関する事例

1．教育・パートナーシップの必要性

（1）環境問題の現状

■環境問題は、地球温暖化や資源循環の対策、グリーンインフラや安心な生活環境をどう守るかなど、幅広い分野にわたると同時に、環境・社会・経済と複雑に絡み合っている。

■そのため、一つの組織が単独で取り組んでも解決できない問題も多い。

■国の「環境基本計画」でもパートナーシップの充実・強化が必要不可欠と認識している。

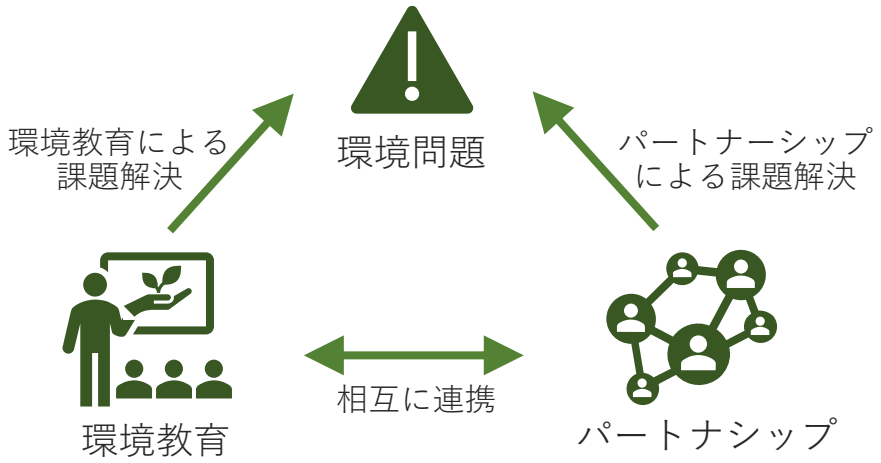
⇒市民やＮＰＯ、事業者、市などのパートナーシップによって問題解決に取り組むことが必要

■環境問題は個々の人や組織が単独で取り組んで解決するものではなく、社会全体で取り組む必要がある。

⇒環境教育によって、一人ひとりの意識を変えることが必要

■環境教育は、パートナーシップによる課題解決を広げていくために必要であり、同時にパートナーシップにより幅広い機会で環境教育を行うことも重要。

⇒環境教育とパートナーシップは相互に連携



（2）パートナーシップ（協働）とは？

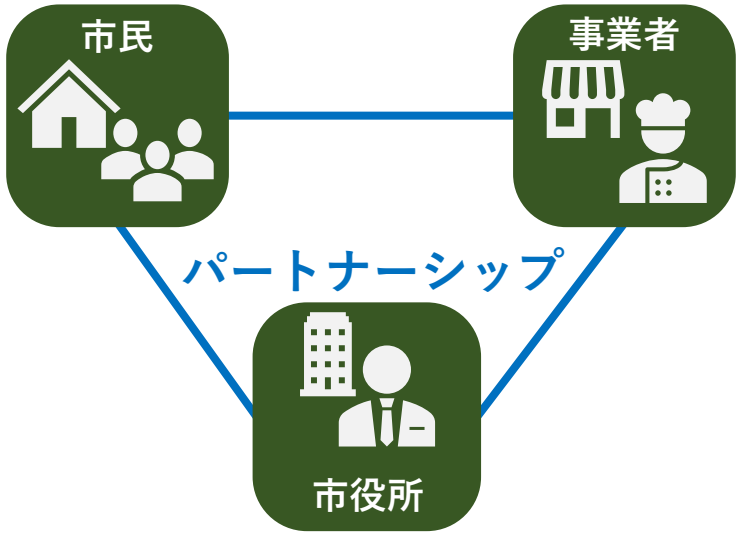
「複数の主体が、まちづくりに関する共通の目標を達成するため、それぞれの役割を果たしながら、相互に補完し、協力すること」

■現在、全国各地で**地域の課題が深刻化、多様化**している。
■行政のみ、市民のみの対応では解決できない課題も増えている。

⇒互いに不足を補い合い、協力して取り組むことで、自分たちの地域課題を自分たちの手で解決

■パートナーシップにより、環境問題だけでなく、地域の問題など他の課題も同時に解決できることもある。
■みんなが自らが行動して問題を解決することで、自分たちの住みよいまちづくりを実現。

⇒自ら行動することで、将来の自分の地域や暮らしのメリットにつながる



多様化する課題に対応

同時に複数の課題を解決

（3）環境教育について

■環境問題は地球全体の問題
■一人ひとりが暮らしを見つめなおし、持続可能な社会に切り替えなければならない。

⇒環境教育によって、地球や地域の現状と、何をすべきかを学ぶ（持続可能な開発に向けて）

■環境教育は多種多様で、幅広い分野にわたっており、学校教育だけで達成することは困難。
■また、これからの時代を担う子どもはもちろん、現状を改善する大人も学ぶことが必要。

⇒学校だけでなく、家庭・地域など様々な場面で実践（多様な主体の参加によるパートナーシップ）

■様々なひと、組織が環境教育に携わる

⇒環境教育を行う人材の育成にもつながる

多様な主体のパートナーシップによる教育の実践が必要

（1）プロジェクトNINOMIYA

■ NPO法人 ezorock が、「薪作り」をツールに都市部の若者と森林をつなげ、森林の課題解決を目指すプロジェクト。

◆プロジェクトによる複数の効果

・地域の不要な木材（木質バイオマス）を使うことで、温室効果ガスの削減とエネルギーの地産地消を実現。
・薪割り体験プログラムを通じた環境学習を行うことで、過疎地域の交流人口の増加を期待。

◆プロジェクトの現状

・厚田や浜益の森から材を運び、薪割りも浜益で行う。
・札幌圏の大学生や社会人の若者のボランティアが中心に活動。
・参加者の半数以上が女性。

（2）いしかり・ごみへらし隊

■石狩市のごみの減量とリサイクルの推進に関する取組や課題の抽出・解決に向けて、市民、事業者及び市が協働して取り組むために平成13年９月に発足。

■**ごみの減量に向けた様々な活動**を行っており、平成30年度は12回の「作戦会議」を実施。

◆エコ体験ツアー

・市内のごみ・リサイクル施設を見学し、リサイクルの体験やごみの減量化について学習するツアーを毎年実施。

◆「ごみ減量のげん太くん」の市広報への連載

・市民にお知らせしたいごみに関する色々なことを４コマ漫画で表現し、市広報誌に掲載。

・平成21年12月から毎月掲載。

◆家庭ごみ出し方ガイドの作成

・ごみが戸別収集になっている石狩市で、ごみ出しのルールやマナー、各種分別やリサイクル情報などを掲載したガイドブックを作成。

・令和２年度版は、３年保存版として、ごみ分別の一覧表も掲載。

（3）海浜植物保護センター

■石狩浜の豊かな自然を市民共有の財産として後世へ残していくことを目指し、市民と協働で保全活動に取り組む拠点として、平成12年４月にオープン。
■平成29年度から運営の一部を、石狩浜の保護・保全活動に取り組んでいるNPO法人いしかり海辺ファンクラブに委託。
■市民が自らセンター運営を担うことで、**市民による石狩浜の保護・保全活動がさらに発展することを目指す。**

◆自然に親しむ行事・講座の開催

・自然観察会や、流木・ハマニンニンクなど石狩浜の自然を使った工作など、市民を対象とした行事や講座を開催。
・さらに、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会との協働により「はまなすフェスティバル」や関連するセミナー、イベントなども開催。

◆企画展の実施

・石狩浜の貴重な自然の写真などを季節にあわせて展示。

◆学校などへの学習支援

・幼稚園、小中学校、高校や大学などの教育機関に対し、石狩浜の自然環境に関する学習支援を実施。
・一般の団体からの希望に応じて、短時間の自然教室も実施。

（4）クマゲラ

■平成１５年に設立した森林づくりのボランティア団体。
■森林保全に係る普及啓発などを目的に、枝打ちや間伐といった森林管理と、原野への植樹活動などを実施。

◆「あつたふるさとの森」への植樹活動

・厚田区小谷にある、かつて酪農地として森林伐採されたものの、酪農放棄地となり草地として残っている土地を、旧厚田村が購入し、森の再生を推進。
・市とクマゲラのパートナーシップにより、この「あつたふるさとの森」への植樹を継続。

◆キノシュ木育里親運動

・「あつたふるさとの森」やその他の森への植樹に使う苗を育てるため、市民参加型の苗づくりを実施。
・市役所などに設置したボックスからどんぐりの種とポットを持ち帰り、市民が自宅で苗を育てたのちに、ボックスで回収、森に植樹するというもの。
・平成２１年度に市の協働事業提案制度として採択され、平成２２年度から継続して取り組みを行っている。

◆各学校や市民に対する森林教室

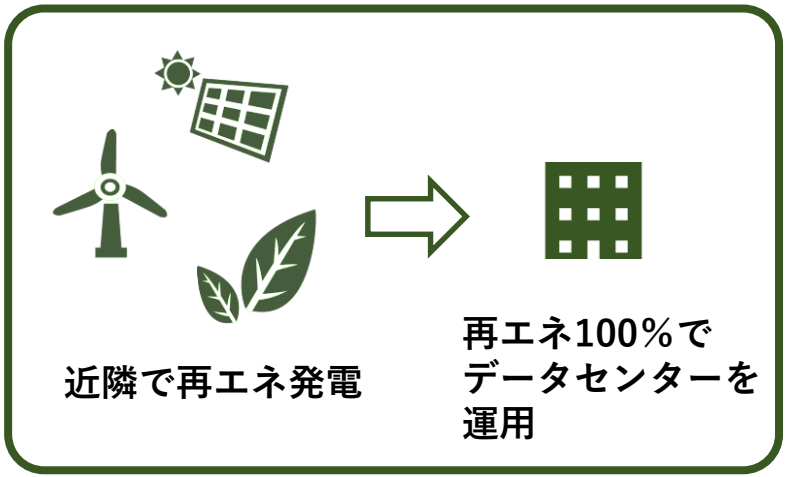
・市内の小学校の総合学習等で、森の生き物や自然の紹介、実際にフィールドに行き森の大切さや楽しみ方を体験する森林総合学習を実施。
・市民向けのイベントとして、専門講師を招いた山菜教室の開催など、毎年一般向けのイベントも実施。

（5）再生可能エネルギーの活用に向けた企業との取り組み

■二酸化炭素の削減に必要不可欠な再生可能エネルギーを地域で上手に活用するため、事業者と協定を結び新たな取組を推進。

◆京セラコミュニケーションシステム㈱（KCCS）との連携協定

・KCCSは、石狩市内に周辺で発電した再生可能エネルギー100％で運用するデータセンターを建設することを目指している。
・石狩市は、この世界初となる先進的なデータセンター実現のために、平成31年3月に連携協定を締結。
・石狩市と京セラコミュニケーションシステム㈱が互いに協力し、**地域の再エネを地域で活用**する仕組みを作り上げることによって、**環境問題と地域課題の同時解決**を目指している。



◆北海道電力㈱との地域連携協定

・石狩市では、石狩湾新港地域の中に周辺の再生可能エネルギーを集めて使える地域を作ることで、地域の再エネを地域で使える仕組みの構築を目指している。
・この仕組みの実現のため、北海道のエネルギー企業としてノウハウを持つ北海道電力㈱と、地域連携協定を令和元年６月に締結。
・**新港地域での再エネ活用**のほか、**再エネに関する新しい産業の育成**、**地域密着型のビジネスの実現**を目指し、互いに協力して石狩の発展を目指している。

（１）小中学校などへの環境教育支援

■これからの社会を担う小中学生に向けて、環境に関する教育を学校を通じて行ったり、環境問題に興味を持ってもらえるよう、石狩市で取り組みを実施。

◆環境教育に関する専門家（講師）の派遣

・石狩市内の小中学校からの要請により、環境に関する各分野での教育プログラムを提供するとともに、**関連する専門家を派遣**。
・「黄金山イチイの木を使った樹木の学び」や、「外来種（アズマヒキガエル）の駆除体験と石狩浜の自然について」など、**環境に関わる様々なプログラムを提供**。

◆環境ポスターコンテスト

・石狩市内の小中学生に、**環境問題についてのテーマでポスターを募集**。
・応募作品は市民図書館で展示し、コンテストで優秀な成績だったものはその年度に発行する「石狩市環境白書」の扉絵として活用する等、環境問題に興味をもつきっかけづくりを目指す。

石狩市環境白書'19　第１章扉絵

（２）まちづくり出前講座

■石狩のまちづくりに関することや様々な制度のことなどを、**市役所の職員を講師として派遣**し、市民の学習のお手伝いをする制度。
■学校、職場、地域の集まりなど、１０名以上ならどのような団体でも利用可能で、環境のみでなく、健康や歴史など幅広い分野のメニューに対応。

◆ごみ・リサイクルに関する講座

・「ごみを減らすために～４Rのすすめ～」、「ごみとリサイクルの出し方」など、市のごみに関する現状やごみ出しの分別、ルールなどについての講座。
・事業所に向けた「事業系一般廃棄物の処理」などの講座も用意し、市民だけなく事業者にも対応。

◆自然環境に関する講座

・「石狩市の自然と保全」、「石狩市の自然～絶滅危惧種と外来種～」など、市内の貴重な自然の状況と、自然を守るにはどうすればよいかについての講座。
・写真もふんだんに用い、イメージしやすく、わかりやすい内容となっている。

◆低炭素に関する講座

・「いしかりＪ－ＶＥＲ」や木質バイオマスに関する講座など。
・石狩市が目指す低炭素化に向け、どのような取り組みをしているかなどを紹介。